

東 大 阪 市

育児相談 24時間 365日受付!!

～休日・夜間の電話相談「子育て相談ダイヤル」が始動～

背景と経過

少子化や核家族化が進み、子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。子育ての相談にのったり育児を援助するなどの地域の養育力の低下も相まって、育児への不安感が増大しています。

本市が平成16年に次世代育成支援行動計画策定に向けて実施したニーズ調査結果から見ても、子育てに関して「非常に不安を感じる」「なんとなく不安や負担を感じる」を合わせると、約55%の人が何らかの不安や負担を感じると答えています。このような不安や悩み等が時として虐待へつながることもあります。

虐待は子どもに対する重大な人権侵害であり、何よりも未然防止が大切であるとの視点から、本市では「子どもを虐待から守る条例」を平成17年12月に制定しました。

この条例は、子どもの健やかな成長と発達を保障するため、市、市民、保護者が協力して子どもを虐待から守る取組を強化していこうとするものです。

また「要保護児童対策地域協議会」の設置により、各関係機関が連携して情報の共有を図り、虐待防止に向けて活動を行う一方で、地域全体で子育てを支援していくという観点から、乳幼児健診を受診していない子どものいる家庭を民生委員・児童委員等が訪問し、必要に応じた養育支援につなげていく「児童虐待発生予防システム構築事業」や、育児に不安や困難を抱える家庭を早期に発見し支援を行うため助産師等を派遣する「育児支援家庭訪問事業」をスタートさせました。

育児相談については、これまで本市では、福祉事務所・保健センター・子育て支援センター・保育所などで広く相談に応じ、内容によっては各機関が連携を図りながら対応してきましたが、もっと多くの人が育児に関する不安や悩みを相談し、抱えている負担を少しでも軽減できれば、虐待の未然防止にもつながると考え、休日・夜間に電話相談ができる「子育て相談ダイヤル」を開設しました。



事業の概要

東大阪市子育て相談ダイヤル 0729-61-0178

- (1) 対象者 東大阪市民
- (2) 受付時間 休日：24時間（祝日及び土曜日・日曜日、年末年始）
平日の夜間：午後5時30分～翌日の午前9時
- (3) 実施方法 市内にある児童養護施設に委託しており、同施設の社会福祉士や保育士等の資格を有する職員が1日に2人ずつ交代で電話での相談に応じます。
- (4) 相談内容 子どもの発達や生活習慣に関すること、養育者の近隣との関わりに関することまで、家庭相談全般を受け付けます。

相談内容によっては、必要性が認められれば専門機関につないで個別の相談に対応できるようにし

ています。また、他市町村の方からの相談については、状況に応じて、適切な行政機関の紹介をしています。



- ・手の握る力が弱いので心配。
- ・日常生活習慣が身に付かない。等



事業効果

本年4月から、事業が始まったばかりですが、予想していたよりも反響が大きく、数多くの相談が寄せられています。

平成18年4月～5月の相談件数は114件で、相談の内容は、子どもの疾病、発育・発達に関する相談が全相談件数の約7割、子育て環境に関する相談が約1割を占めています。

相談の多い時間帯は18時～20時の相談が約3割、23時～1時が約2割、深夜2時～3時が約1割です。様々な事情で通常の市役所の受付時間帯には電話ができない方、仕事を持つ保護者からの相談や、日中は家事育児に追われ余裕のなかった保護者が、家事を終えてから、また深夜に家人が寝てからそと相談をしてくるケースもあるようです。市外の方からの相談も多く寄せられ、本事業への期待の大きさを感じます。

（相談事例）

○子どもの疾病、発育・発達についての相談

- ・おむつかぶれがひどく、通院をするべきか悩んでいる。
- ・幼稚園に通い始めたが、排泄の自立ができず、発達が遅れていないか心配。
- ・1歳児だが、毎日2時間おきに泣くのでイライラする。
- ・11ヶ月だが離乳食を食べてくれない。

○子育て環境についての相談

- ・幼稚園に通園しているが、同年の子の親との付き合いが難しい。
- ・両親共働きで学童保育に預けているが、子どもだけにする時間帯があり心配。
- ・だだこね、粗暴な行動があり、どうしたらいいか。
- ・（孫の相談で）嫁の育て方が気に入らない。等



相談者の多くが、周りに育児のことを気軽に相談できる相手がおらず、孤立し、実際はよくやっている保護者の方であっても、必要以上に育児に対して悩んだり、自信を失ったりしていることがあります。話を聞くことで、育児に対する自信を取り戻してもらい、少しでも心にゆとりを持つことができれば、と考えています。

これからも楽しく子育てをしてもらうために、市や、地域全体が子育てを支援していく仕組みづくりを進めていきたいと思っています。